

いばきた

デザイン プロジェクト レポート

IBA-KITA
DESIGN PROJECT
REPORT

09

2021 / 03



お問い合わせ

茨木市 都市整備部 北部整備推進課

〒567-8505 茨木市駅前三丁目8-13

電話：072 (620) 1609

ファックス：072 (620) 1730

メール：hokubuseibi@city.ibaraki.lg.jp



次なる
茨木へ。

桑原橋周辺の安威川。豊かな自然に包まれた、美しくならかな深流に佇んでいると、しばし時を忘れてしまいそうになる。

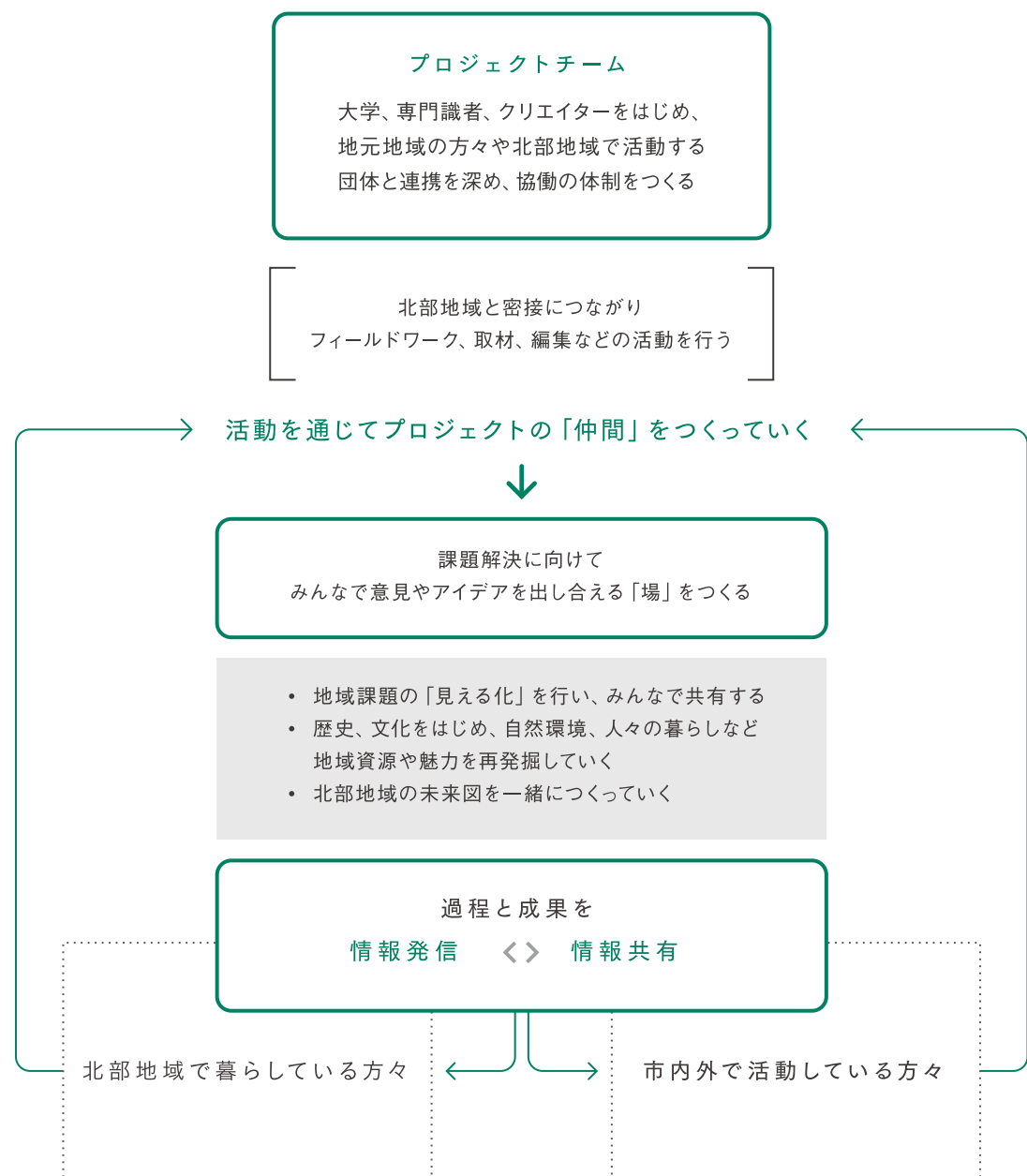
茨木市北部地域の課題解決を目指して。

茨木市は、大阪市や京都市へアクセスしやすく、大学・高校をはじめとする教育機関、ショッピングモール、商店街、飲食店などの商業施設も充実していることから、関西圏の中でも「住みよいまち」「利便性の高いベッドタウン」として評価が高く、茨木市全体の人口推移は毎年増加傾向にあります。一方、北部山間地では、若者を中心とする人口流出と農林業従事者の高齢化により、産業や環境保全の停滞が続いています。特に問題となっているのが、山間地の「深刻な過疎化」です。茨木市の全面積の約半分が山間地にあたりますが、市街地の人口に対して約1%という統計もあります。

このような課題解決に向けて、地元で暮らしているの方々をはじめ、市内外のさまざまな人たちが北部地域に関心を持ち、みんなで考え、一緒に取り組んでいくことができるフィールドを創出するため、平成30～令和2年度の3年間を実践期間として取り組んできたのが、いばきたデザインプロジェクトです。来年度以降は、このプロジェクトで培った地域との関係性を基盤に、より発展的な取り組みを行っていきます。

いばきたデザインプロジェクトでは、活動の過程や成果を編集し、期末ごとに「冊子」を発行します。本年度は、「旧石河村地区」と「大岩いも掘り園」を対象にしています。

課題解決に向けた「仕組み」をデザインする。



地元の方々との交流を深め、
地域資源や魅力を再編集することで
「新たな価値創出」への糸口を見出す。

大阪大学大学院 工学研究科の学生が
「大岩」でフィールドワークを行いました。

「いばきたデザインプロジェクト」では、茨木市北部地域における少子高齢化、農業従事者の担い手不足をはじめとする幾多の課題について、地元の方々、行政、市内外の人たちと一緒にデザインによる解決を目指します。また、地域資源や魅力を掘り起こし、再編集することによって、新たな価値創出に向けての糸口を見出していきたくと考えています。

大阪大学大学院工学研究科環境エネルギー工学専攻都市環境デザイン学領域の学生たちとのチームによる「大岩」のフィールドワークでは、自治会長の大西稔さんをはじめ、地元で活動を続ける方々に集まっていただき、地域の課題点、活性化に向けての取組みなど、さまざまな意見やアイデアをお聞きすることができました。今後も、深く情報共有を図り、交流の機会を増やしていきながら、みなさんと共にプロジェクトを推進させていきます。



大阪大学大学院 工学研究科
環境エネルギー工学専攻 助教
松本 邦彦さん

(まつもとくにひこ) 1981年大阪府生まれ、茨木高校出身。大阪大学大学院工学研究科環境・エネルギー工学専攻博士後期課程修了。博士(工学)。2009年より株式会社スペースビジョン研究所勤務を経て、2013年より現職。研究分野は、景観保全、文化的景観の保存と活用に関する研究や歴史まちづくり。

いばきたデザインプロジェクトで培った
経験と情報、ネットワークを活かし、
さらなるアプローチを続けていきたい。

いばきたデザインプロジェクトの3年間におよぶ取組みを振り返り、大阪大学大学院工学研究科 環境エネルギー工学専攻 助教 松本邦彦さんと茨木市北部整備推進課 地域づくりグループの職員による意見交換を行いました。北部地域全体における課題点の抽出と集約、蓄積された地域情報の活用方法を中心に、「地域の再編集」「デザインによる課題解決」についての指針、実装に向けてのアクションプランを再検証することができました。これからも、3年間で培ってきた経験を存分に活かし、さらにレベルアップした取組みへとつなげていきたくと考えています。



茨木市 都市整備部
北部整備推進課 地域づくりグループ
正木 友希 (まさき ゆき) / 伊東 尚美 (いとう なおみ)

